

# 川内原子力発電所周辺における地震観測体制強化の取組みについて

## 1 目的

- 当社は、川内原子力発電所敷地周辺で、地震計を設置し、平成9年度から自主的に地震活動状況を把握しておりますが、鹿児島県知事からのご要請(平成28年8月26日)も踏まえて、観測体制を強化することで、更なる安全性・信頼性向上に向け、より高い精度で地震活動状況を把握することとしています。

## 2 取組概要

- 川内原子力発電所敷地周辺の陸域及び海域に、現在19箇所の観測点を設置しています。今回12箇所増設し、合計31箇所にて観測を実施します。当社の観測点に加えて、気象庁・防災科研・大学などの観測点のデータも活用し、分析を実施します。

### 観測点設置の考え方

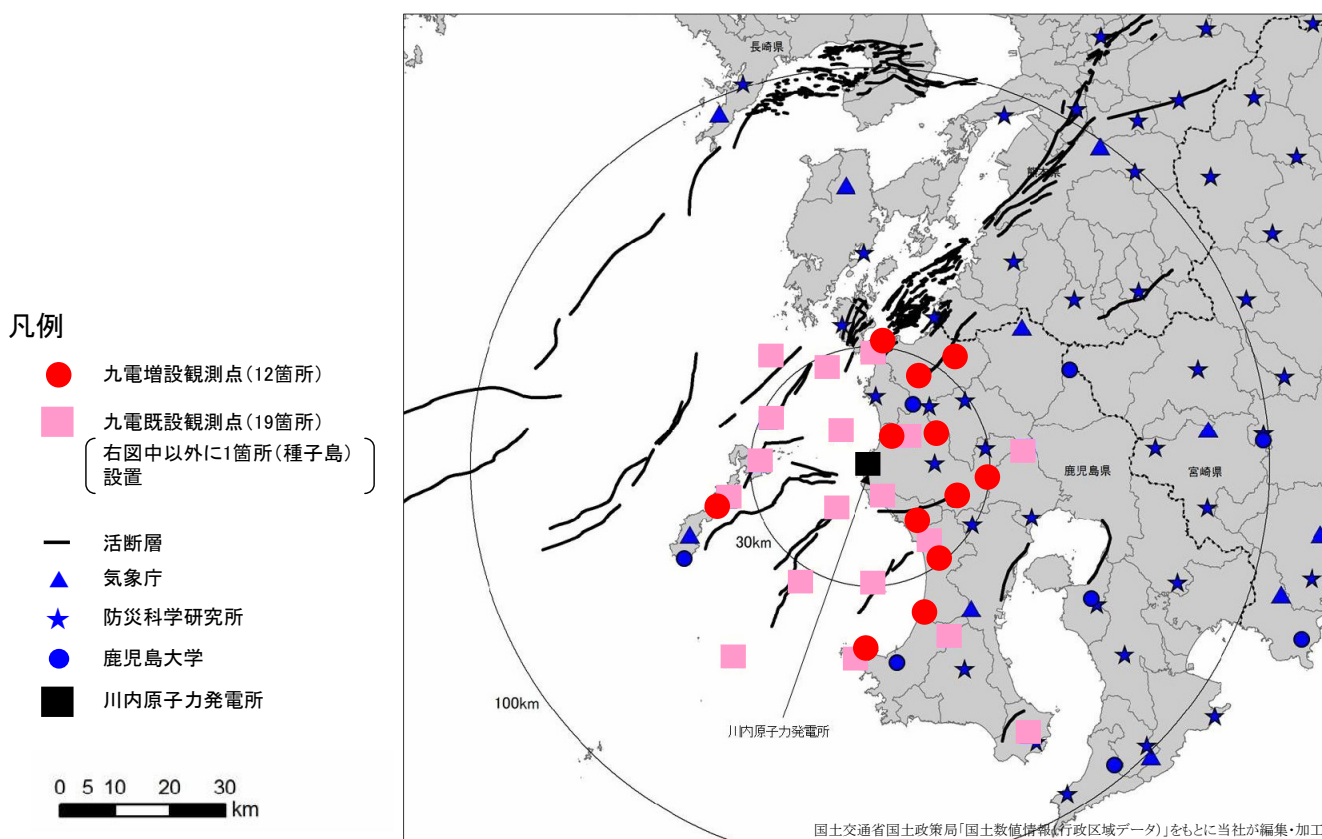
- ・発電所敷地への影響が大きい、発電所から半径30km圏内を対象とした。
- ・10km間隔程度で30km圏内をまんべんなくカバーする配置とした。
- ・30km圏外についても主要な活断層の周囲に配置した。

## 3 観測点増設及び地震観測のスケジュール

- 観測点の増設は、平成29年6月末～平成30年3月を予定(年度内完了)。増設が完了した地点から、地震計の動作状態やデータ通信状態などの確認・調整を行った上で随時観測を開始します。

## 4 観測結果の公表ほか

- 観測結果は定期的に公表します。また、地震活動が活発化する傾向が確認されれば、より詳細な調査・分析を実施します。



観測点増設地点及び既設観測点